

～開校記念日特集～

仏教行事から紐解く駒澤大学

Contents

- 開校記念日によせて 2
- 名誉教授のプロフィール 3
- 開校記念日特集
仏教行事から紐解く駒澤大学 4・5
- 中村ゼミ 6
- 奥沢メキシコ・フイエスタでワークショップ開催
在学生が故郷を紹介 お国自慢 鹿兒島県 8
- 活躍する卒業生
セツカートンベトナム副社長 浜田昭彦さん 16



開校記念日によせて

感性豊かな大学生活を

駒澤大学の歴史の中での 130周年記念棟「種月館」



総長 池田 魯参

この月のこの日が駒澤大学の開校記念日です。私はこの日を迎える度毎に、駒大の栄えある学統に浴することができ己れの幸いを思い、先人たちが嘗々と築き上げてきた行履を想い起し、将来駒大はどんなふうに進展していくのであろうかと、あれこれ想像をめぐらせるのです。この好機に皆さんも禅文化歴史博物館で大学史の展示をご覧になり、駒大の来し方行く末に想いを致し、駒大に学ぶご自身の立ち位置を確認されるようお勧めします。

周知の通り、校歌でリフレインされる「旃檀林」の学寮が設置されたのは420余年も前のことですが、学生の数が増え手狭まになったので、駒込の吉祥寺から麻布日ヶ窪（今日の六本木ヒルズ辺）に移転したのが、明治15（1882）年10月15日のことでした。校名も新たに「曹洞宗大学林専門本校」と改め、この日が駒大の開校記念日となりました。それから数えて今年134年目を迎えることとなります。大正2（1913）年には現在の駒沢の地に移転するのですが、こちらもすでに103年の月日が流れたこととなります。

伝統とは決して昔物語りなのではありません。駒大の伝統はいつも駒大に学んでいる皆さんと共にあり、皆さん自身が即今当処（いまここ）に創り出していくものといえます。永平寺を開創された道元禅師は、「峯の色谷の響も皆ながら、吾が釈迦牟尼の声と姿」と詠まれました。四季折々の山の景色が、谷川を流れる水の音が、2500年も前のお方のお姿として教えとしていただけるというのです。私たちも新たな駒大の伝統を創出するべく、感性豊かに日々の大学生活を務めなければいけないと存じます。珍重。



学長 廣瀬 良弘

開校130周年記念棟の建設は順調に進み、来年12月には高層棟が完成します。9階建て、一部4階建てで、最先端のPC教場・多目的ホール等が入り、1階は明るく広い食堂となります。この高層棟の通称は「種月館」と決まりました。隣の禅文化歴史博物館には「耕雲館」という名があり、「耕雲種月」という禅語からの命名です。「月に種う」、月光を背に、額に汗して懸命に種を蒔く姿、懸命に「行」をする修行僧の姿を表現する言葉であり、また、「雲を耕し月に種をまく」という禅の洒落さからのスケールの大きな言葉でもあり、類語に「釣月」（月を釣る）があります。

駒澤大学の前身の前身である吉祥寺は、江戸城を造った太田道灌が建てて約550年。ついで、徳川家康の江戸入城直後の吉祥寺の中に学寮（のちの旃檀林）ができて424年。1882年（明治15）、西麻布（今の六本木ヒルズ・テレビ朝日のところ）に近代的な大学となって134年。駒沢に移転してきて103年になります。

高層棟は建物の規模・機能からしても、「種月館」という名からしても、また一つ、駒澤大学の歴史的「名所」「エピソード」が増えたという思いで一杯です。すてきなローマ字あるいはスマートなカタカナ文字がちりばめられた名称は今後、各パーツに付けられていくものと思います。ご期待ください。ただ、4年生・3年生は、工事中の不便さの中での卒業ということになりますが、母校が一層よくなるということに免じて理解をいただきたいと思います。卒業後に母校を訪れていただき、食堂などもご利用願えれば幸いです。工事中の安全と美化には一層努めてまいりますので、ご寛容のほどお願いいたします。

一松語

『徒然草』最終段では「始まり」をめぐる親子の問答が紹介される。いかにして人は仏に成るのかと子から尋ねられて、自分より先に仏に成った者からの教えによって成るのだと答えたものの、それでは教え始めた第一の仏はいかなる仏なのかと問われるに及んで父親もいよいよ困りはて「空よりや降りけん。土よりや湧きけん」と言って笑うしかなくなる。この好奇心旺盛な8歳の子もこそ、後の兼好法師その人

である。父親の回答には問題なしとはしないが、とにかく「始まり」を語ることは困難がつきまとう◆西洋哲学の始まりはギリシャ哲学であり、たいていの教科書にはギリシャ哲学の始まりは万物の原理を「水」だと喝破したミレトスのタレスだと書いてある。「原理」にあたるギリシャ語「アルケー」はそもそも「始まり」を意味するのであるから、この哲学史観にしたがえば哲学は「始まり」をめぐる問いから始まったことになる◆ここでタレスの「水」がなぜ哲学の始まりなのかを

理解するためには、そもそも「哲学する」とは一体何なのかという根本的な問いを避けて通ることはできない。「始まり」をめぐる問いのボールを前へ投げても結局それは跳ね返って自分の足元に戻ってくる。かくして「始まり」を問うことは今・ここでの現状を問い直すことにほかならない◆今月15日は開校記念日である。そのような「始まり」に思いを馳せることにもまた、その時々「今」を見つめ直す現在進行形の営みとしての意義があるのだと言えよう。

名誉教授のプロフィール

名誉教授の称号は、学校教育法第106条、駒澤大学学則第51条及び駒澤大学法科大学院学則第14条第4項に基づき、教育または学術上、特に功労のあった先生に授与されます。

各学部の教授会の推薦により名誉教授審議委員会にて審議され、今年度は、7月7日(木)に授与式が行われました。



文学部
高田 知波先生

高田知波先生は、昭和62年に本学に着任され、29年の長きにわたって奉職されました。ご専門は日本近現代文学。樋口一葉ら明治文学の研究者として著名だが、夏目漱石や太宰治らの〈名作〉の再検討や、名前をめぐるジェンダーバイアスを浮き彫りにしたユニークな論考もあります。それらは、『姓と性』（やまなし文学賞受賞）などのご著書を通して知ることができます。実証と読みとを融合させた刺激的な論に魅了された人は多いのではないのでしょうか。

(文学部教授 岡田 豊)



経済学部
清水 卓先生

清水先生は、1982年の着任以来、34年にわたって経済学部でご活躍になりました。大学運営においては、90年代のカリキュラム改革の先頭に立ち、さらに経済学部長職、教務部長職を歴任され、本学の発展にご尽力いただきました。ご研究は、フランス農業論を中核にイタリアや東欧を含む欧州全域に及びます。物事に真摯さを湛えるお人柄でみんなに慕われてきました。ますますのご活躍をお祈りいたします。

(経済学部教授 溝手 芳計)



経済学部
瀬戸岡 紘先生

瀬戸岡紘先生は1977年に駒澤大学経済学部にご着任されました。アメリカ経済論を担当され、経済学部のブランドともいえる各国経済論分野の重要な一角を担ってこられました。大学外への情報発信にも積極的に関わってこられました。ご専門のアメリカ経済論に加えて、先生が語る市民生活論、文化論に多くの学生や市民の方々が魅了されました。退職後の先生はますますご多忙のご様子です。今後の変わらぬご活躍を祈念いたします。

(経済学部教授 姉齒 暁)



経済学部
友松 憲彦先生

友松先生は1971年、本学北海道教養部に着任され、以後28年間にわたり岩見沢キャンパスで教鞭をとられました。1999年には本校の経済学部へ異動され、西洋経済史を担当されました。大学院経済学研究科委員長その他の要職を歴任される一方、研究面では『近代イギリス労働者と食品流通』、『近代イギリスの日用品流通』などの大著を上梓されました。消費・流通の実態に着目した先生の研究は、学界でも高い評価を得ています。

(経済学部教授 渡邊 恵一)



経済学部
谷敷 正光先生

谷敷先生は、本学出身の生え抜き助手として採用されて以来、経済学部の歴史を作り出してきたレジェンドです。先生は教員の育成に力を注いできました。特に関東近辺の中・高に薫陶を受けた教員が多く、教頭、校長を多数輩出しています。先生の教員養成過程では何より礼儀作法が重視され、谷敷ゼミの学生は背筋を伸ばし見事な一礼をするので、すぐに一員であることが分かります。礼儀と人格重視の教育こそが先生の遺産であり、駒澤出身教員の高い評判を生み出してきたのです。

(経済学部教授 荒木 勝啓)



総合教育研究部
落合 和昭先生

落合和昭先生は昭和49年4月に当時の外国語部に迎えられ、研究対象は主にテネシー・ウィリアムズで、論文も毎年のように書かれていました。その人柄はいつも穏やかでしたが、その一方で是々非々をはっきり表明され、何でも唯々諾々と受け入れるという方ではありませんでした。私は自分が不安になると時々先生の研究室のドアをノックしましたが、いつもニコツとして受け入れていただきました。あの笑顔が忘れられません。お元気です！

(総合教育研究部教授 林 明人)



総合教育研究部
松岡 晋先生

松岡先生は、1983年からの長きにわたり、駒澤のドイツ語教室運営に力を注がれてきました。19世紀ドイツがご専門の歴史家である一方、オーストリアの作家ネストロイの研究者でもあり、文学と歴史を豊かに橋渡しするアプローチが印象的です。その守備範囲の広さは、他学部への出講として社会思想史の授業を担当されていたことにも表れています。飾らないお人柄で、言葉でよりは背中でもって、多くのことをご教示いただきました。

(総合教育研究部講師 吉中 俊貴)



仏教行事から紐解く駒澤大学



本年10月15日(土)は駒澤大学の134回目の開校記念日です。これは本学が、1882(明治15年)10月15日に曹洞宗大学林専門学本校として開校したことに由来します。

今号では、キャンパスで日頃行っている仏教行事の「法要」を紐解きます。皆さんは、法要がいつ、どこで、どのような願いを込めて営まれているかご存知ですか?もしかしたら、参加しにくいと感じていたり、自分とは関係のないものだと思っている方もいるかもしれません。これを読めば、法要が皆さん一人ひとりにとって身近で、誰でも参加できるものだと知ることができるでしょう。縁があって駒澤大学で大学生活を送るので、大らかな気持ちで心静かに手を合わせる時間を作ってみませんか?

Q 「法要」って何ですか?

法要とは、「仏さまの教えを知る」ことを意味します。現代ではそこから転じて、「読経を伴う仏教儀礼」を指します。駒澤大学でも、定められた日に学生や教職員が参加して読経礼拝を行い、仏さまへの祈りを捧げています。

Q なぜ大学で法要を行うの?

本学は仏教の教えと禅の精神を建学の理念としています。そして、創立の礎となった曹洞宗の教えに基づいて、法要などの仏教行事が行われることになりました。これらの本学の特色を生かして、学業成就やすべての人々の安寧を祈り、法要を営むことが、建学の理念を表現する駒澤大学の姿であるといえます。本学の法要のあとには、総長先生や各学部の先生方によるお話を聞くことができます。

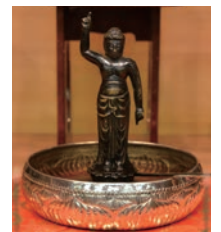
Q どんな法要があるの?

左下の表にあるように、駒澤大学では定められた法要が営まれています。お釈迦様、^{だるまだいし}達磨大師、曹洞宗の両祖に関わる法要や、月初めに行う^{しゆくとうほうよう}祝禱法要などがあります。それぞれに目的や意味があり、法要ごとに読むお経や^{しょうごん}荘嚴(飾りつけ)が異なります。

法要に参加することで、それまでの駒澤大学での日常とは異なる新しい気づきになるかもしれません。

Q どこに行けばいいの?

法要は中央講堂で行います。教務部がある「本部棟」を大学正門側の入り口から入り、2階から階段を上ってください。



法要の種類を知ろう!

駒澤大学では9種類の法要があります。この他にも随時法要を営むことがあり、今年度は年間で23回執り行われる予定です。

^{しゆくとうほうよう}祝禱法要 (8月・9月を除く毎月の月はじめ)

月のはじめにあたり、世界の平和と学生の身心堅固、学業成就を祈念します。

^{しゆくせんごうだんえ}釈尊降誕会法要 (4月8日)

釈尊の誕生を祝う日で、一般にも「花まつり」として親しまれている行事です。

^{りようそき}両祖忌法要 (9月29日)

道元禅師と瑩山禅師は、奇しくも同じ日に亡くなられました。そのお二人を供養する法要です。

^{だるまき}達磨忌法要 (10月5日)

禅の教えをインドから中国へ伝えられた釈尊から28代目の達磨大師が亡くなられた日、報恩供養の法要を営みます。

^{たいそごうだんえ}太祖降誕会法要 (11月21日)

大本山總持寺の御開山太祖瑩山禅師が誕生された日を祝して記念の法要を営みます。

^{じょうどうえ}成道会法要 (12月8日)

釈尊が悟りを開かれた日を記念して法要を営みます。夕刻からは学外からお招きした講師による「記念講演」が催されます。

^{こうそごうだんえ}高祖降誕会法要 (1月26日)

大本山永平寺の御開山高祖道元禅師が誕生された日を祝して記念の法要を営みます。

^{ねはんえ}涅槃会法要 (2月15日)

釈尊が亡くなられた日です。大涅槃図をかかげて、釈尊の偉大な人格を敬慕して法要を営みます。

祝禱音楽法要と文化講演 (4月~7月、10月、11月の15日前後)

心静かにお互いの幸福を祈って、合唱団による音楽を取り入れた法要と講演を行います。

※祝禱音楽法要と文化講演は、仏教学部を中心とする「仏教行事運営委員会」が運営しています。
 ※土日・祝祭日や行事・式典等と重なった場合は、日にちが変更となります。
 ※学生手帳や大学カレンダーにも、法要の日にちが記載されています。

今年度の法要日程一覧

4月1日(金)	祝禱法要
4月7日(木)	釈尊降誕会法要
4月14日(木)	祝禱音楽法要と文化講演
5月2日(月)	祝禱法要
5月12日(木)	祝禱音楽法要と文化講演
6月1日(水)	祝禱法要
6月15日(水)	祝禱音楽法要と文化講演
7月1日(金)	祝禱法要
7月14日(木)	祝禱音楽法要と文化講演
9月29日(木)	両祖忌法要
10月3日(月)	祝禱法要
10月5日(水)	達磨忌法要
10月13日(木)	祝禱音楽法要と文化講演
11月2日(水)	祝禱法要
11月15日(火)	祝禱音楽法要と文化講演
11月21日(月)	太祖降誕会法要
12月1日(木)	祝禱法要
12月8日(木)	成道会法要と記念講演
1月6日(金)	祝禱法要
1月26日(木)	高祖降誕会法要
2月1日(水)	祝禱法要
2月15日(水)	涅槃会法要
3月1日(水)	祝禱法要





法要の基本作法

入学式の時、見よう見まねでやってみた人もいるのではないのでしょうか。そんなに難しいものではありませんが、肘の高さや腰をかかめる角度などを知っておくと、所作も美しくなります。

一、合掌(がっしょう)

相手に尊敬の念をあらわす作法です。両手のひらを合わせてしっかりと指をそろえます。指の先を鼻の高さにそろえ、鼻から約10センチ離します。ひじを軽く張り、肩の力は抜くようにします。



二、礼拝(らいはい)

仏さまを拝む作法です。合掌をした状態で、腰から体を曲げて身をかかめます。法要中に三度の礼拝、「三拝(さんぱい)」を行います。



三、読経(どきょう)

お経を読むことを読経と言います。お経本は両手で持ち、目の高さまで持ち上げます。親指と小指を内側にし、残り3本の指で外側を持ちます。ページをめくるときは、親指を使います。



四、略三宝(りやくさんぼう)

仏教の三つの宝である仏(覚者)法(教え)僧(修行者)に感謝し、その功德を全てに向けてのため、お経を読み終わり、回向文が読み上げられた後に、以下の偈文をお唱えします。

十方三世一切仏 (じっほうさんせいいっさいぶつ)
諸尊菩薩摩訶薩 (しよそんぶつさーもーこーさー)
摩訶般若波羅蜜 (まーこーはーじゃーほーろーみー)

音楽と講演のある「祝祷音楽法要と文化講演」

仏教行事運営委員会 仏教学部教授 奥野 光賢

「祝祷音楽法要と文化講演」は、「仏教の教義、並びに曹洞宗立宗の精神」を建学の理念とする本学の仏教教育の一環として、授業期間中の原則として毎月15日の昼休みに行われています。運営の主体になっているのが、1980年、故光地英学名誉教授の偉大なる発願によって組織された仏教行事運営委員会です。以来、歴代仏教学部長が委員長となり、教職員・大学院生のご協力のご支援もあって、今日まで途切れることなく継続する本学ならではの行事として認知されるまでにいたりしました。前半の音楽法要は、合唱団による聖歌の中、総長先生を導師に厳かな法要が営まれます。後半の文化講演では、各学部等から推薦された先生方による短いながらも凝縮された魅惑的なお話が展開されます。また、毎年12月には釈尊の成道を記念しての講演会を催し、その内容は前記の文化講演とともに、2年に一度『祝祷文化講演集』として刊行していますので一読してみてください。



学生の声

人文科学研究科仏教学専攻修士2年 秦 慧州

毎月1回行われる祝祷音楽法要では受付や法要のお手伝いをしています。初めて参加したとき、法要の冒頭で合唱団が歌う賛美歌にはとても驚きを感じました。お寺生まれの私にとって、仏教行事ではお経を唱えることが一般的だったからです。それは普段の読経とは異なり、厳かな雰囲気の中にも温かみのある法要であり、駒澤大学ならではの行事だと思います。また、法要後に行われる文化講演では、様々な学部の先生方のお話を聞けます。特に、普段接することが少ない他学部の分野について学べる貴重な機会です。30分という短い時間の中でも充実した祝祷音楽法要は誰でも参加できる行事なので、是非多くの方に参加してもらえたらと思います。

※講演集は本学図書館に配架されています。また多少予備がありますので、配布を希望される方は仏教学部事務室にお問い合わせください。

駒澤大学のあゆみ

1916	平成28	開校130周年記念棟「種月館」建設中。
2013	平成25	大学院にグローバル・メディア研究科を開設。
2012	平成24	駒澤大学開校130周年を迎える。
2008	平成20	経営学部市場戦略学を増設。
2007	平成19	経済学部現代応用経済学を増設。
2006	平成18	大学院に医療健康科学研究科を開設。
2004	平成16	大学院法曹養成研究科(法科大学院)を開設。
2003	平成15	医療健康科学研究科診療放射線技術科学科を開設。
2002	平成14	経営学部で昼夜開講制実施。
2000	平成12	駒澤大学開校120周年を迎える。
1998	平成10	経済学部、法学部で昼夜開講制実施。
1992	平成4	文学部に心理学科を増設。
1982	昭和57	「学林」設立以来400年を迎える。
1972	昭和47	駒澤大学開校100周年を迎える。
1971	昭和46	法学部に政治学科を増設。
1969	昭和44	経営学部を開設。
1967	昭和42	駒澤短期大学に放射線科を増設。
1966	昭和41	文学部に地理学・歴史学科を増設。
1965	昭和40	法学部を開設。
1964	昭和39	駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。
1962	昭和37	法学部を開設。
1952	昭和27	駒澤短期大学に国文科・英文科を増設。
1951	昭和26	商経学部第2部を増設、大学院人文科学研究科を開設。
1950	昭和25	学校法人駒澤大学に組織変更。
1949	昭和24	駒澤短期大学仏教科第2部を開設。
1925	大正14	学制改革により新制大学に移行。
1913	大正2	仏教学部、文学部、商経学部の3学部9学科で再スタート。
1905	明治38	大学を現在の駒沢(旧東京府在原駒澤村)の地に移転。
1904	明治37	校名を「駒澤大学」と改称。
1882	明治15	大学令による大学として認可。
1876	明治9	校名を「曹洞宗大学」と改称。
1875	明治8	専門学校令による大学として認可。
1657	明暦3	麻布北日ヶ窪に校舎を新築して移転。
1592	文禄元	10月15日に校名を「曹洞宗大学林専門学校」とする。
		「曹洞宗専門学校」を駒込吉祥寺に移して「曹洞林」と合併。
		中国の名僧・陳道栄が「佛檀林」と命名。
		「曹洞宗専門学校」を青松寺獅子窟学寮内に開設。
		江戸駿河台吉祥寺に「学林」設立。

経営学部中村ゼミ 奥沢メキシコ・フィエスタでワークショップ開催

経営学部経営学科3年 岡田 浩太

中村公一ゼミは、製品から企業レベルまでの競争戦略という「生きた経営」の考察や、新しいビジネスプランの策定など経営戦略・マーケティングを軸として研究をしており、7月末に世田谷区奥沢駅周辺で行われた「第2回奥沢メキシコ・フィエスタ2016」でイベントの企画・運営



と、小学生向けワークショップを行いました。ワークショップではメキシコの伝統的な帽子である「ソムブレロ」を作ったのですが、工作する「娯楽(エンターテイメント)」に経営学を学ぶ「教育(エデュケーション)」という要素を含めた、「エデュテイメント」がテーマでした。モノが実際に企画されてからどのようにして販売されていくのか、また「誰に」「どのように工夫して」作成したのかを用意したポスターなどをとに考えてもらいました。

今回、商店会の方と共に地域連携事業を行うことで、学んだ理論が実際の



現場でどれほど活用できるかという、ゼミ活動のアウトプットができたと考えています。さらに8月末に行われた「人を大切にする経営学会」では活動報告を行い、沢山の方から客観的なフィードバックをいただくこともできました。このようにPDCAサイクルの過程をとったことで、これからのゼミ活動へとつながる非常に貴重な体験となりました。

GMS学部が(株)くるりと共同で授業を実施

グローバル・メディア・スタディーズ(GMS)学部が、株式会社くるりの営業部長近藤千草氏を招き、和装を若年層に広めるプロジェクトとして、「GMS和装デー」や「プロジェクト型アクティブラーニング」を実施しました。

和装デーでは、キャンパス内に七夕飾りを設置し、シャボン玉で涼をとるなどの催しをするとともに、授業を和装で受講することを推奨しました。アクティブラーニングでは「新生セミナー」の約60人の学生が、若者が和装を着るようになる方法をプレゼン大会で提案し、4件が表彰されました。



経営学部青木ゼミが協賛企業賞を受賞

経営学部青木茂樹ゼミの学生5人が、「第8回 販促会議企画コンペティション」(株式会社宣伝会議主催)に出場し、プロの広告代理業者が多数参加する中、協賛企業賞を受賞しました。

「思わず、カルビーポテトチップスを手に取りたくなるような店頭で実現できるアイデア」という課題に対し、「シオルチ」(シオルダーポテトチップス)というアイデアを提案しました。これは、袋に動物をデザインした肩掛け紐を付属させることで子どもの興味を引き、保護者の荷物も減らすというものです。



経営学部3ゼミが「人を大切にする経営学会」で発表

経営学部の渡辺伊津子教授を大会実行委員長として開催された「人を大切にする経営学会 第3回全国大会」の自由論題第3分科会で、経営学部の渡辺伊津子ゼミ、小野瀬拓ゼミ、中村公一ゼミの学生が口頭発表しました。

渡辺ゼミは「協働からみる人を大切にする経営管理」、小野瀬ゼミは「留学生が見た面白い会社」、中村ゼミは「地域に人の楽しさを提供する小規模フェスティバルのマネジメント-奥沢メキシコ・フィエスタの企画を通じて-」という三者三様のユニークな報告で、活発な質疑応答が交わされました。



経済学部長山ゼミが静岡県浜松市で研究成果を発表

経済学部長山宗広ゼミの学生約40人が静岡県浜松市天竜区春野町を訪れ、中山間地の会社経営者の方から話を聞いたり、現場を訪問する学習会を行い、その成果を「第1回春野カフェ」(NPO法人楽舎 主催)で発表しました。

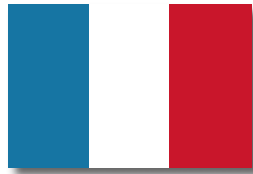
春野カフェとは、春野の人と暮らしの魅力を発信するためのトークイベントで、「里山の可能性見つけた」と題し、学生が「森林とバイオマス」・「山里の起業」・「地域コミュニティ」をテーマに研究発表を行いました。また、長山教授や浜松市の担当者の方が中山間地の課題を講義しました。



フランス エクス・マルセイユ大学 交換留学

文学部歴史学科外国史学専攻 4年

高橋 恭子



留学生活は、毎日が刺激的で一言では言い表せません。寮生活では、共同キッチンで多国籍な留学生と自分の専門科目や日本に関する話をし、大学でも先生や学生に助けをもらいながら授業や試験に臨むことができました。また日本各地から集まった留学生は、慣れない海外の大学生活でも、語学だけでなく文化などを学ぶことに常に貪欲で、話をしていると刺激をもらうことができ、良きライバルたちにも出会えました。大学の授業は非常に難しかったのですが、自分のできることをコツコツと、日々の予習・復習や課題も余裕を持って始めて毎日机に向かい、レポートを完成させ、プレゼンの練習をしたことは、日本で忘れかけていた勉強への姿勢を思い出しました。

正直なところ、日本に比べると何もかもマニュアル通りに進まず、何度壁にぶつかったか分かりません。しかし、それは自分のアプローチ次第で変わることも多いということです。何度失敗しても挑戦し続けることで上手いいったこともありました。フランスでは日本よりも上手いかないことは多かったです。その分人対人の関係がすごく大事なのではないかなと思います。良い事も悪い事も沢山経験しましたが、フランスに来なければ良かったと思うことが一度もなかったことは、留学生活が有意義だったことの証だと思っています。これからは何らかの形で勉強し続けようと思います。

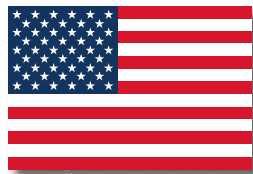


前列左から4人目が高橋さん

アメリカ カリフォルニア大学アーバイン校 短期語学セミナー

法学部法律学科フレックス B 2年

高橋 晶子



日本とは比べものにならないくらい強い日差し。雲一つない青空。心地よい少しひんやりした空気に迎えられたアメリカでの生活はとてつもなく刺激的でした。普段何気なくしている買い物でさえ勝手が違うため、最初はドキドキでしたが、なんとかできた時の安心感と充実感は計り知れません。右も左もわからなかったのが慣れるまでの数日は戸惑ってばかりでつらいこともありましたが、仲間のサポートもあり楽しく過ごすことができました。また、現地の



一番右が高橋さん

人たちとの交流は本当に素晴らしいものでした。すれ違う人々との挨拶、ちょっとした会話。みんな陽気でユーモアに溢れていたもので、人と会うたびに元気になりました。

この語学セミナーで学んだことは、何かを伝えたいと思ったらとにかく口に出してみ、伝わらなくてもめげずにどんどん話してみることです。向こうの人たちも私たちの言っていることを理解しようとしてくれるので、単語を変えてみたり、似ていることを言うことで伝えることができましたが、今以上の英語力と母国のことをもっと知る必要だと感じました。いろいろな人たちと話すうえで、自国と他国の違いを話す機会が多かったので幅広く日本を知るべきだと思いました。帰国した今、一層いろいろなものに触れて日本を海外に紹介できるようになりたいです。



アメリカ

アーカンソー工芸大学
(アーカンソー州)
カリフォルニア大学
アーバイン校
(カリフォルニア州)
カリフォルニア州立大学
ロサンゼルス校
(カリフォルニア州)



カナダ

ブリティッシュ・
コロンビア大学
(ブリティッシュ・コロンビア州)



イギリス

エクセター大学
(デボン州)



フランス

エクス・マルセイユ大学
(プロヴァンス地方)



スペイン

アルカラ大学 (マドリッド州)



オーストラリア

クィーンズランド大学
(クィーンズランド州)
グリフィス大学
(クィーンズランド州)



中国

北京大学 (北京市)
華東師範大学 (上海市)



韓国

東国大学校 (ソウル市)



台湾

淡江大学 (新北市)
義守大学 (高雄市)



国際センターより お知らせ



クィーンズランド大学・ 来日プログラム



ボランティア学生の募集

本学協定校のオーストラリア・クィーンズランド大学の学生14人が日本語・日本文化を学ぶため、11月25日(金)～12月18日(日)の間、駒澤大学にて研修を行います。研修期間中、留学生の学習・生活を支援し、彼らと交流を持ってみませんか? 興味のある学生はぜひ募集説明会へご参加ください。英語力は特に必要ありません。

▼ 募集説明会

日時	10月19日(水) 12時15分～12時50分
場所	1号館203教場



※詳細については国際センター事務室に
お問い合わせください。

TEL(03)3702-9732

法学部金子ゼミは、3年生24人、4年生24人が所属しています。普段は「歩く行政法」をテーマに3つのグループに分かれ、それぞれが、「高齢者虐待防止法違反国家賠償請求事件」や「入学不許可処分取消等請求事件」などの行政法に関する事件の判例を研究しています。研究した課題は、1. レジюмеを基に事件の概要の説明・解説 2. 前回の質問に対する回答や補足資料の説明 3. 私見の発表・討論といった順序で発表を行い、特に私見については全員が自分の意見を持ち討論することができることを目標としています。

当ゼミのテーマである「歩く行政法」とは、疑問に思うことがあったとき、教科書やインターネットなどを調べて終わりとするのではなく、実際に自らの体を使って取材しに行こう！というものです。その一環として当ゼミでは研究対象の事件についての理解を深めるために、訴訟に関係のある省庁・企業・弁護士等に対してインタビューを行っています。

インタビューを行うことで授業で聞いたりインターネットや資料を読んで調べただけでは分からない法律上の課題や最新の情報を知ることができ、今までと違った新し



い視点を得ることができます。

今年度の夏合宿では判例ではなく「地震と法律問題」、「空き家問題」、「待機児童の問題」といった現在行政が直面している問題について実際に関係機関にインタビューしてまとめた資料を発表し解決策を議論しました。

このように判例だけでなく今起きている問題について広い視野で受け身ではない積極的な研究ができることが金子ゼミの大きな魅力と感じています。

日本全国、
世界からも学生が集う駒大。
故郷のいろんなことを
アピールしていただきます。

お国自慢

第 1 回



法学部法律学科
フレックスA 2年

中村 日菜子

出身高校：
鹿児島城西高等学校

今回のお国自慢

鹿児島県



〈鹿児島県〉ってこんなところ

私の出身地である鹿児島県は九州南部にあり、面積は、全国10位。2つの半島と複数の離島で成り立っています。山と海に囲まれた自然豊かな土地には、火山もあり、多くの方がご存知の桜島が代表格です。噴火は日常茶飯事になっているので、驚くことはありません。天気予報で火山灰の「降灰予報」が出されるのも特徴かもしれません。また、605の島があり、その1つは世

界自然遺産の屋久島です。

鹿児島といえば「これ!」という食べ物はたくさんありますが、中でも100を超える種類の焼酎があり、消費量は日本一。そして、特産物には、食品の中でも珍しく「黒」とつくものがあり、『黒豚』や『黒砂糖』が有名です。黒豚のトンカツは地元へ帰ると必ず食べたくなるくらいめっちゃ美味いですよ。

中村さんのおすすめ

食べ物

『きびなごの刺身』

とても美味しく、刺身だけど
酢味噌で食べると絶品です!



スイーツ

『スイートポテト』

薩摩の国の「さつまいも」は有名ですから。

観光地

『いおワールドかごしま水族館』

小学生の頃、ジンベイザメとイルカを見に水族館に行ったのですが、白いものが光るようなトンネルの水槽が印象的でした。鹿児島島の錦江湾などに生息する魚や黒潮に乗って生息する魚を見ることができます。



写真提供：いおワールドかごしま水族館

これぞ鹿児島弁!

【おやっとなあ】

意味：お疲れ様

仕事を終えた人や遠くからやって来た人に対し、その労をねぎらう言葉。

ヨーロッパにおけるユース育成

総合教育研究部講師 岩本 哲也



昨年度、ヨーロッパのプロサッカークラブであるNAC Breda U-17（オランダ）、Norwich City Football Club U-18（イングランド）、A.C. Cesena U-19（イタリア）の3クラブに、若年世代の選手育成に関する調査・研究を行う機会を得た。

NAC Bredaは、4-3-3のフォーメーションをベースとしたテクニカルで攻撃的なスタイル。Norwich City Football Clubでは、イングランド特有の縦に速く、ボールをめぐる身体のおつかり合いを厭わない闘争心溢れたスタイル。A.C. Cesenaは攻撃と守備の両面のバランスを大切にしたいスタイルと、各国、各チームで独自のスタイルがあり、トレーニング内容はそれに合わせたオーガナ

イズがされており、より実践をイメージしたものだった。しかし、全てのチームに標準装備されていたのは、「メンタルの強さ」である。ゲームでは勿論だが、トレーニングから勝負へこだわり、練習だからといって一切妥協することなく勝敗に強いこだわりを見せる。

メンタル的な部分は、なかなか具体的に数値化されるものではないが、だからこそ「勝つ」という事への日々のトレーニングでの「行動」の積み重ねが大切だ。技術や戦術、フィジカル的な部分等も重要なファクターではあるが、サッカーとは人間対人間の戦いであり、時として「メンタリティー」が技術や戦術を超えた「強さ」を生む一つの要因になると感じた。

このような貴重な経験と研究ができたことに感謝し、今後の研究活動等に生かしていきたい。

仏教行事について

太祖降誕会

仏教学部教授 松田 陽志

人の誕生日を祝うときには、その人に対して抱いている「親しみ」が基点となるはずである。「親しみ」とはその人とのつながり（縁）を大切に思い、その人の存在に対して感謝したいという思いである。

11月21日は、曹洞宗で開祖・道元禪師から四世代目の瑩山紹瑾禪師(1264～1325)の誕生日である。この日(旧暦・10月8日)を生誕の日と伝える記録は、江戸期寛文年間(1661～1673)以降であり、この日に太祖降誕会という法要を教団として行うようになったのは、太陽暦に換算した明治33年からである。また誕生年を文永元年(1264)とするのは、この数十年の歴史資料の分析を通じてである。教団は、太祖と仰ぎそのつながりの上にあることを確認してきた。

教団の存続と発展を願い、總持寺や永光寺を中心にして多くの門徒を後世につなげた瑩山禪師に対し、忌日に恩徳に報いんとする供養の法会は古くから行われてきたが、明治期以後、本学でも行われる太祖降誕会は、道元禪師の教えを嗣続せんとする人々にとって、瑩山禪師とのつながりの上にあることを意識し、その感謝の思いにより行われる。



身近な人の誕生日を祝いながら、心ひそかに念ずる「いてくれてありがとう」という思いである。

成道会

総合教育研究部教授 矢野 秀武

12月8日。日本の仏教諸宗派では、この日を釈尊が悟りを開いた日として祝い、儀礼を行う。この行事を成道会と呼ぶ。

日本では、釈尊の生誕を祝う降誕会もしくは灌仏会、入滅の日の行事である涅槃会の行事をそれぞれ異なる日に行うが、スリランカやミャンマー、タイ、ラオス、カンボジアを中心に広まる上座仏教では、降誕・成道・涅槃の出来事が奇しくも同じ日(現在では5月中旬の満月の日)であったとされ、併せて盛大な祭が営まれる。その祭をヴェーサーカ祭(スリランカではウエサック、タイではウィサーカなどと発音する)と呼んでいる。

13世紀に成立したタイ族初の王朝であるスコタイ王朝では、ヴェーサーカ祭を三日三晩にわたって盛大に執り行っていたと言われている。現代のタイでは、三日三晩の祝祭とまではいかないが、ヴェーサーカの日は休日となり、人々は寺院を詣でる。

また1999年には、「国連ウエーサク日」が国連で承認され、ヴェーサーカ祭は、世界中の仏教徒が祝う重要な日となっている。

成道会とヴェーサーカ祭。祝う日や行事の意味は異なるが、釈尊の悟りを世界史的出来事ととらえ、12月8日を迎えてみてはいかがだろう。



仏教学と「無知の知」

仏教学部教授

松本 史朗



『ソクラテスの弁明』という書物によると、ソクラテスは「私が知らないことを、私は知っていると思わない」と述べたとされ、このような考え方は「無知の知」と呼ばれるらしい。それとは無関係かもしれないが、最近の私は仏教について知らないことが多すぎると考えるようになった。仏教を学び始めて半世紀近くになるというのに、私は仏教学の多くの分野のほんの一部分に触れただけに過ぎない。私が一応専門としているインド仏教についても、そこには原始仏教聖典、部派仏教のアビダルマ論書、大乘経典、中観・唯識・如来蔵・論理学の哲学論書というような膨大かつ難解な文献群が存在し、その全てを読破するというは、もちろん、私にはできなかった。

しかし、これらの文献群を全て読解しているかのようにも見える偉大な仏教学者が存在する。ハンブルグ大学のシュミットハウゼン名誉教授がその人であり、その驚異の語学力と文献読解の精密さには、ただ驚嘆する他ない。唯識に関する教授の学説の一部に私が異議を唱えたところ、教授は最近出版された大著で、私の見解を詳細かつ徹底的に批判された。大変名誉なことだと思っている。何年前か前に東京でお会いしたとき、私は唯識については素人ですと述べたところ、唯識研究の世界的権威でありながら、教授はすぐにWho isn't?と答えられた。これは素人でない人などいないという意味であろう。私は、そこに「無知の知」と同じ考え方が示されていると思い、深い感銘を受けた。確かに、自らの無知を自覚しなければ、知を求めて学ぶということもあり得ないであろう。

障害の重い子どもに学ぶ

総合教育研究部教授

遠藤 司



障害の重い方々と教育的関わりの実践を積み重ねることにより、私は今までに多くのことを学ばせていただいた。はじめは、ほんの少し身体を動かすことや、物を見ること自体を課題としていた方々が、次第に物同士の関係や、文字や数字などの記号・概念の世界に入り、ついには、自分の考えや思いを言葉で表現するようになる姿を見てきた。

言葉を獲得するに至る過程は多様であり、それぞれの人の出す言葉も多様である。特に、初めての言葉に個性が滲み出る場合が多い。ある人は、「うきうき」と、ある人は、「たのし(たのしい)」と、またある人は「つかれた」と出した。必ずしも自由には動かない体を懸命に動かし、文字を書いたり50音表の中の文字を指したりしながら、その人らしい言葉を出す姿を見ることができた時、私は大きな喜びを感じた。「伝えたい」ということこそが、人間が言葉をもつことの1つの重要な意味であることを改めて学ぶことができた。

人間が言葉をもつことの意味は何か、「伝える・伝えられる」ことはいかにして成立するのか、40年以上言葉を出すことなく世界を生きていた人にとっての言葉の意味は何なのか。彼らがこの世に生を受け、家族の方々とともに懸命に生き、私との関わりの機会に誠実に取り組んでくれたからこそ、学び、考え、探求することができたテーマである。私にとって、このことの意味は重く深い。今後も、障害の重い方々との関わりを積み重ねることにより学びを深め、彼らの生が豊かになることにほんの少しでも貢献できれば幸いである。

卒業生の富岡成一さんが リオパラリンピックの卓球監督に

本学卒業生で卓球部前監督(2007～2010年度)の富岡成一さん(1967年 経済学部卒業)が、9月にブラジルで開催された「リオ2016パラリンピック競技大会」の日本代表選手団卓球監督を務められました。

富岡さんは1945年東京都生まれで中学校から卓球を始め、本学卒業後、34歳で卓球専門店「トミオカ」を開業し、卓球指導をしながら選手としても長く活躍されてきました。自身も26歳のときに交通事故に遭い下肢を負傷したものの健常者大会への参戦を続け、国体出場や全国大会優勝の経験をお持ちです。52歳で障がい者卓球を知り、以降は障がい者の全日本選手権、世界

選手権にも参戦し、59歳でアテネパラリンピックに出場されました。

【大会実績】

- 2000年 全日本障害者選手権
9クラス優勝
- 2001年 アジア・南太平洋フェスティック 9クラス優勝
- 2002年 世界障害者卓球選手権
9クラスベスト8
- 2004年 アテネ・パラリンピック
9クラスベスト8



平成28年度科学研究費助成事業

科学研究費助成事業（科研費）は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる研究を格段に発展させることを目的とする文部科学省・日本学術振興会の研究費であり、専門分野の近い研究者による審査を経て、独創的・先駆的な研究に対して助成を行うものです。

平成28年度駒澤大学では、今年度からの新規課題12件、昨年度以前からの継続課題37件、合わせて49件の研究課題が採択されています。

●採択者一覧

※GMS学部＝グローバル・メディア・スタディーズ学部

研究種目	継続/新規	所属	職名	氏名	研究課題名
基盤研究(B)	継続	仏教学部	教授	石井 公成	古代東アジア諸国の仏教系変格漢文に関する基礎的研究
	継続	文学部	教授	佐々木 真	戦争叙述のための博物館の可能性—歴史の方法の有効性について
	継続	法学部	教授	中野 裕二	国内社会の紛争としての移民問題：フランスの市民統合モデルの変化に関する学際的研究
基盤研究(C)	継続	仏教学部	教授	村松 哲文	中国における涅槃図像の変容に関する研究—敦煌・西安・四川の相関関係—
	新規	文学部	教授	近衛 典子	上田秋成の俳諧研究のための資料整備と基礎的研究
	継続	文学部	教授	土井 光祐	データベース構築に基づく明恵関係関係書類の記述的研究
	新規	文学部	教授	唐澤 一友	古英語格言詩 Maxims I, II に関する総合的研究
	継続	文学部	教授	大城 道則	エジプト王バクエンレンエフのギリシア・ローマ世界への伝播過程に関する研究
	新規	文学部	教授	熊本 史雄	「近代史科学」構築のための基礎的研究—地方行政機関の公文書管理規程の収集と分析—
	継続	文学部	教授	酒井 清治	東国における初期仏教文化の導入と展開
	継続	文学部	准教授	深澤 弘樹	ローカルニュースの現状と役割に関する研究：内容分析と送り手調査から
	継続	文学部	教授	松信 ひろみ	世代間関係、ネットワークからみた中期から高年期への移行と夫婦関係に関する研究
	継続	文学部	教授	山田 信行	グローバル化と反システム運動の動向—半周辺社会マレーシアを事例とする調査研究
	継続	経済学部	講師	井上 智洋	長期の貨幣政策とデフレ不況
	新規	経済学部	准教授	江口 允崇	ゼロ金利下での政府支出は有用か-DSGEモデルを用いた理論分析と日米の実証分析
	継続	経済学部	教授	長山 宗広	オープンイノベーションとメイカーズ革命時代における製造業の日本的創業モデル
	新規	経済学部	教授	渡邊 恵一	戦時・戦後復興期の民営鉄道—経営の多様性—
	新規	文学部	教授	内海 麻利	日仏の都市計画法制における一般利益と個別利益との関係に関する研究
	新規	法学部	教授	原田 啓一郎	地域包括ケアシステムによる高齢者の住まいとケアの保障—地域居住の実現への法的研究
	継続	法学部	准教授	山崎 望	ポスト代表制における民主主義の諸問題—代表制、熟議システム、直接民主主義—
	継続	経営学部	教授	菅野 佐織	ブランド・リレーションシップの国際比較に関する研究
	新規	経営学部	教授	小本 恵照	フランチャイズに関する理論的・実証的研究：ビジネス・モデルからのアプローチ
	継続	経営学部	教授	日野 健太	フォロー視点によるリーダーシップに対する期待・失望のメカニズムの解明
	継続	医療健康科学部	教授	嶋田 守男	ハイブリッドMRI造影剤創製と動物実験による他の造影剤との性能の基礎的比較検討
	継続	GMS学部	教授	川崎 賢一	転換期にあるシンガポールの文化制度：グローバル創造都市の新たな展開
	継続	GMS学部	准教授	芝崎 厚士	脱国民国家の思想からオルタナティブ国民国家の思想へ—近現代日本のトランスナショナリズム
	継続	GMS学部	准教授	朴 正洙	日・米・中・韓・台の消費者行動に及ぼす「消費者エスノセントリズム」の影響と課題
	継続	GMS学部	准教授	服部 哲	生活に溶け込むタブレット・メディアの構想：障害者・高齢者に学ぶコミュニケーション
	継続	GMS学部	准教授	吉田 尚史	センサデータベースを対象とした即時分析及びタグ自動抽出
	継続	総合教育研究部	准教授	小川 順敬	久米島の明治大正期の郷土史および民俗資料の整理と研究
	継続	総合教育研究部	教授	小沢 誠	多様体グラフの埋め込み
	継続	総合教育研究部	准教授	上田 倫史	総合的な受容・産出語彙の測定テスト開発とその予測値に基づく学習支援システムの構築
	継続	総合教育研究部	教授	中村 哲子	アイルランド旅行記・小説・図像のインターアクション—1780年から1864年
新規	総合教育研究部	教授	西村 祐子	伝統的皮革業集団の多文化比較におけるディスコース分析の可能性	
継続	総合教育研究部	准教授	三木 望	日本人学習者のライティングのメタ話話標識のエラー分析	
継続	総合教育研究部	教授	佐藤 普美子	京派詩人における倫理的なものへの美学的考察	
継続	総合教育研究部	講師	三好 俊介	パリ亡命ロシア文壇の言説空間に関する研究：「亡命文学」概念の生成現場として	
継続	総合教育研究部	教授	伊藤 茂樹	非行少年の社会復帰とその支援に関する教育学的研究	
新規	GMSラボラトリー	研究員	廣瀬 毅士	「第三の消費文化」パラダイムに基づいた中国消費社会の実証研究	
挑戦的萌芽研究	新規	文学部	教授	須山 聡	ネオ内発的発展論に基づく「限界集落」の生存戦略の構築—住民との協働による実践—
	継続	文学部	教授	坪井 健	偏見の低減のための教育—ヒューマンライブラリーの効果研究
	継続	医療健康科学部	教授	森口 央基	「仮想データ」を用いたMRI撮像の高速化
若手研究(B)	継続	文学部	講師	高山 大毅	江戸中期の「復古」思潮と中国観の変容に関する研究
	新規	文学部	准教授	高田 良太	コンスタンティノープルのヴェネツィア人に関する研究
	継続	文学部	教授	荒井 浩道	ピアサポート機能に注目した認知症家族会の運営マニュアルの開発と評価に関する研究
	継続	文学部	講師	濱田 国佑	日系南米人集住地域における外国人受け入れ意識の変容に関する実証的研究
	継続	経営学部	准教授	中野 香織	「符号化変動性仮説」に基づく複数メディアによる相乗効果の検討
研究活動スタート支援	継続	文学部	講師	平子 達也	鳥根県出雲地域諸方言の研究
特別研究員奨励費	継続		特別研究員	李 子捷	東アジア諸国の仏教における唯識・如来藏思想史—五世紀から八世紀を中心として—

科学研究費による学術研究 ～生活に溶け込むタブレット・メディア～

グローバル・メディア・スタディーズ学部准教授 服部 哲

科研費の助成を受けて取り組んでいる研究テーマは「生活に溶け込むタブレット・メディアの構想：障害者・高齢者に学ぶコミュニケーション」です。近年、タブレットやウェアラブル端末の進歩が著しいものの、その進展は、障害者や高齢者にまで届いていないといえます。本研究では、聴覚障害や発達障害などのため言葉によるコミュニケーションが困難な人々を支援することを目指しています。具体的には、(1)福祉領域での拡大代替コミュニケーション(AAC)活用を調査し、そのノウハウをタブレットに反映する、(2)日常生活でのコミュニケーションで活用可能

なアプリをタブレットで開発する、この2点を目指しています。これまで、会話のキーワードを音声認識し、それを字幕のようにタブレット端末に表示し、またそのキーワードに応じた写真やイラストを字幕に合わせて表示することによって、障害児・者が会話の内容を理解できるようにするアプリを開発しました。アプリの可能性は示唆されましたが、解決すべき課題も指摘されました。今後は、本アプリを広く利用していただけるように研究開発を進め、本アプリを公開することによって、研究成果を社会に還元したいと思います。

9月学位記授与式を挙

9月17日(土)10時より中央講堂で学位記授与式を挙し、学部生67人が卒業、法科大学院生1人が修了しました。



法科大学院9月入学式を挙

9月17日(土)13時より中央講堂で法科大学院の9月入学式を挙し、新たな新入生を迎えました。



KOMAZAWA NEWS

世田谷区立駒沢中学校が大学訪問

6月29日(水)に世田谷区立駒沢中学校の3年生138人が、大学体験のために本学の駒沢キャンパスを訪問されました。これは中学のキャリア教育の一環として3年前から始めた取り組みで、模擬授業やキャリアセミナー、禅文化歴史博物館・図書館の施設見学等を体験していただきました。



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会との連携

本学では、「東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会」と連携協定を締結しており、のぼり旗やポスターを学内に掲出しています。

また連携事業の一環として、学生を対象として行った、SNSにハッシュタグ「#Tokyo2020学生」をつけて投稿するキャンペーンを周知しました。



2016第2回ブックハンティングを実施

8月1日(月)、図書館が第2回ブックハンティングを実施しました。これは学生が書店に出かけ図書館に所蔵してもらいたい本を選定する企画です。「みんなで、読みたい本を探しに行こう!」をテーマに今回は三省堂書店池袋本店で行われました。購入図書は、12月22日(木)まで図書館2階で展示します。



経営学部が世田谷区立駒沢小学校のサマースクールに企画参加

経営学部の5ゼミが、8月26日(金)に世田谷区立駒沢小学校のサマースクールに企画参加しました。2回目の参加となった今回は、共通テーマ「教え、学び、成長へ～実践的知識の探求～」を掲げ、経営学を分かりやすく楽しく教え、教える難しさを学生自らの学びに活かすことを目指しました。



交換留学生の送別会・壮行会を開催

7月9日(土)に「受入交換留学生の送別会・派遣交換留学生の壮行会」を開催しました。海外から受け入れた交換留学生と、これから留学する本学学生が参加し、帰国する4人の外国人留学生が上達した日本語でスピーチしました。久保田昌希副学長も出席され、交換留学生たちを激励しました。



北京大学との学術交流企画講演会開催

7月22日(金)に駒沢キャンパスで、本学主催の国際文化交流講演会「18-19世紀の中国と西洋の間における貿易品の展開とその影響」を開催しました。「駒沢大学と北京大学との学術交流」(2005年12月締結)に基づく企画で、北京大学の歴史学系郭衛東教授をお招きしました。



北京大学のキャンパス

開校130周年記念棟「種月館」5施設の名称が決定

5月から6月まで学生・教職員に公募した「種月館」内5施設の名称が決定しました。1. ルーフテラスは「空のテラス」、2. 多目的ホールは「種月ホール」、3. ラウンジは「ウイステリア」、4. テラスは「緑の丘テラス」、5. サークル優先スペースは「緑の丘スタジオ SEED / MOON」です。



経済学部松本典子准教授が労務理論学会賞を受賞

経済学部の松本典子准教授が、5月28日(土)・29日(日)に愛媛大学にて行われた労務理論学会第26回全国大会で、「労務理論学会賞(研究奨励賞)」を受賞しました。受賞作は、「イギリスにおける労働者協同組合の現状と課題」『労務理論学会誌』第25号(晃洋書房)です。



第10回学長学業奨励賞が222人に授与されました。

この賞は、前年度の各学科成績上位者若干名を学年ごとに表彰するものです。

<仏教学部>

【2年次生】栗木 亮学・丹羽 道海・西川 淳元・奥野 憲昭・鈴木 昌成

<仏教学部禅学科>

【3年次生】青木 隆直・佐藤 俊輝
【4年次生】吉岡 俊明・中野 智教

<仏教学部仏教学科>

【3年次生】池本 絵里・矢ノ下 智也・山本 りな
【4年次生】森 有希・工藤 颯太・岩井 明子

<文学部国文学科>

【2年次生】森田 花織・小松崎 彩・土田 めぐみ
【3年次生】高井 優里・山本 夏未・武田 尚子
【4年次生】石井 明日未・森 晴菜・渡邊 温子

<文学部英米文学科>

【2年次生】竹口 隼人・野澤 稚佳奈・山下 宣篤
【3年次生】金井 巧介・渡邊 舞・篠塚 結
【4年次生】大久保 翠・石原 ゆりえ・鳥羽 希美

<文学部地理学科地域文化研究専攻>

【2年次生】中村 麻友・建石 涼太
【3年次生】吉岡 啓・大坪 亮太
【4年次生】斉藤 あいみ・矢島 慎也

<文学部地理学科地域環境研究専攻>

【2年次生】亀山 史紀・鈴木 悠生
【3年次生】玉城 遼・西脇 圭一郎
【4年次生】石原 功基・田辺 杏樹

<文学部歴史学科日本史学専攻>

【2年次生】天野 由香里・小川 遥香
【3年次生】瀬野尾 有香・松永 幸恵
【4年次生】池田 翔太・西野 真悠

<文学部歴史学科外国史学専攻>

【2年次生】高瀬 海人・安藤 彩華
【3年次生】君田 李奈・飯倉 愛美
【4年次生】内田 美香・畑野 梨花

<文学部歴史学科考古学専攻>

【2年次生】鈴木 翔哉
【3年次生】秋山 遥
【4年次生】善方 呀映

<文学部社会学科社会学専攻>

【2年次生】角田 淳・福富 実輝也
【3年次生】毛 佳偉・鎌田 祐子
【4年次生】上窪 暎・野崎 真由

<文学部社会学科社会福祉学専攻>

【2年次生】高見 佳乃子・米山 由莉
【3年次生】渡邊 萌・吉田 華子
【4年次生】菅谷 弥生・藤村 凌平

<文学部心理学科>

【2年次生】乾原 継桃・松村 莉奈
【3年次生】乾原 胡桃・高橋 龍之介
【4年次生】大森 結貴・王 翠

<経済学部経済学科>

【2年次生】鄧 霞・宇佐美 奈穂・長田 茉佑子・多田 百合菜・松嶋 多寿久・大西 和人・濱崎 勇斗

【3年次生】加賀屋 究・下山 業名・櫻田 誠和・松崎 由香・吉澤 星良・宮下 悠紀・青木 一晃

【4年次生】千羽 敏史・青木 さゆり・青木 大地・津保久 美奈・熊谷 真・浅沼 理紗・一倉 理紗

<経済学部商学科>

【2年次生】吉岡 沙織・北澤 陸・齋藤 英璃奈・福島 侑紀・本間 柁之

【3年次生】畠山 楓・塚本 拓巳・伊藤 駿・土屋 和樹・小田 結香

【4年次生】古松 開土・谷口 佑也・川城 大樹・高木 理保・水本 藤真

<経済学部現代応用経済学科>

【2年次生】尾池 一樹・南 康太・築地 真由子
【3年次生】村井 宏紀・小宮 美恵・松原 黎
【4年次生】島田 真琴・石井 茜・大黒 愛子

<法学部法律学科フレックスA>

【2年次生】岡口 悠莉恵・中西 菜月・川田 真央・鈴木 朱里・樫根 莉穂・栢田 昌大

【3年次生】高嶋 里帆・廣瀬 愛実・菅原 陸斗・伊藤 未希・佐々木 淳・中島 未礼

【4年次生】渡辺 早苗・草野 夏海・関本 俊・小澤 悠河・嘉村 聡士・成沢 莉加

<法学部法律学科フレックスB>

【2年次生】浅岡 和也・仁藤 光一・佐々木 聖優・井上 瑞穂
【3年次生】板垣 玲祐・下屋敷 大介・堀口 麻美子・片柳 拓海

【4年次生】溝呂木 輝・前田 桃子・大倉 里美・塩澤 有希

<法学部政治学科>

【2年次生】木村 俊哉・中村 茜・竹田 千尋・柴田 優斗
【3年次生】仲村 裕太・渋谷 明憲・當麻 沙織・目黒 雄貴
【4年次生】真野 斗志樹・中村 成秀・小野寺 悠祐・一木 亮祐

<経営学部経営学科>

【2年次生】有賀 万海・小池 雄飛・中條 悠・椿本 宗輝・林 華鳳・宮崎 雄石・山本 愛梨咲

【3年次生】笠間 あい・若狭 和也・川原 実穂・岡田 浩太・本山 純也・石井 美穂・若月 ともみ

【4年次生】吉田 美里・李 美鳳・山口 友香・増田 隆明・杉原 和歩・栗原 優花・佐藤 透

<経営学部市場戦略学科>

【2年次生】木村 名・宮川 瑞生・竹下 英里・田中 智恵
【3年次生】安斎 奈々・阿部 ひな子・仲橋 祐希・福原 原

【4年次生】佐藤 美玖・藤下 瞬・園田 隼弥・只野 綺花

<医療健康科学部診療放射線技術科学科>

【2年次生】安居 虹希・田村 梨奈
【3年次生】齋藤 拓也・新本 悠律子
【4年次生】能重 達匠・石橋 貴徳

<グローバル・メディア・スポーツ学部グローバル・メディア学科>

【2年次生】内山 未理・小野 美晴・田澤 朱璃杏・前徳 南穂・尾崎 友美・信田 雄也

【3年次生】川崎 夏帆・梁島 理雄・箱井 彩佳・陳 丹陽・中川 翔伍・田中 紋

【4年次生】山本 祐輔・土田 穂里・長谷川 愛・山岡 優美・中村 恵梨・小内 悠加

ブルーペガサスの 藤田千穂さんが 献血体験を発表

7月7日(木)に明治神宮会館で行われた、「第52回献血運動推進全国大会(厚生労働省・日本赤十字社・東京都主催)」で、応援指導部ブルーペガサスに所属する藤田千穂さん(政治4)が「体験発表」を行いました。

この大会は毎年開催され、皇太子ご夫妻もご臨席されています。藤田さんは「応援」と「献血」の共通点などについて話し、全国から集まった約1500人の関係者の方々から大きな拍手をいただきました。このたびの発表は、ブルーペガサスが年2回キャンパスで実施している献血活動に貢献していることから依頼を受けたもので、東京都学生献血推進連盟に加入する本学の名を皇太子ご夫妻にお聞きいただいた貴重な機会となりました。



スポーツ フェスティバル開催

今年度も玉川キャンパスにてスポーツフェスティバルを10月2日(日)に開催しました。「地域社会との交流」を大きなテーマとして、午前中のスポーツ教室、午後のスポーツ体験会を中心に、吹奏楽部によるマーチング演奏や相撲部によるちゃんこ鍋試食会を企画しました。次年度以降も、スポーツフェスティバルを通じて、体育会本部に所属する団体の活動や競技を少しでも多くの方に知ってもらえればと思います。そして近隣の小中学校の皆さんや近隣住民の方々の結びつきをより一層深めていくことを体育会本部の目標にするとともに、参加した小中学生の中で、何年後かに駒大の学生として活躍するアスリートが誕生すればとても嬉しいです。



(体育会本部委員長
ラグビーフットボール部
経済学部経済学科4年 保坂 章徳)

大学祭 オータムフェスティバル 2016



今年は、10月29日(土)・30日(日)に、駒沢キャンパスで大学祭「オータムフェスティバル」を開催します。ゼミやサークル、学生有志によるさまざまなイベントを企画します。

プログラム

- ・教場企画 ・模擬店
- ・Koma市 ・BINGO大会
- ・謎解き!!ウォークラリー
- ・駒澤フレンドパーク
- ・お笑いチャンピオンシップ
- ・駒澤プロジェクト
(駅伝応援・坐禅会等)
- ・THEパフォーマンス駒沢
- ・ミス・ミスター駒澤コンテスト
- ・人気声優によるトークショー
- ・アーティストライブ

ホームページ

<http://www.komazawa-autumn2016.com/>

Twitter

https://twitter.com/koma_autumnfes

サークル訪問 147回

一般スキー部

これからの季節楽しめるのは、ウィンタースポーツ。今回のサークル訪問では、一般スキー部をご紹介します。

現在の所属人数は男子16人、女子8人の計24人。入部するほとんどの人が、初心者だといいます。主な活動は、週に1回のミーティング。そして今年は、初めての夏合宿も実施したそうです。12月からは3月にある個人戦の大会に向けて、月に一度長野県で合宿を行っており、その他、他大学との交流会にも積極的に参加しています。このように近年は、上下の仲をもっと深めるために、様々な活動を試みているそうです。

スキーといえば冬の競技。夏は、トレーニング内容や活動場所に困ることもありますが、それでも一年中精力的に活動しています。「他の大学の人たちとも仲良くなれたり、OB・OGの方が協力してくれたり、人脈が広がるということも一つのやりがいですね」と語ってくれたのは主将の渡邊さん。また、この部の魅力を知ると「部



活だけど厳しすぎることもなく、和気あいあいとしていて、1年生から4年生まで仲良く楽しめるような雰囲気です。そして、部活としての環境がある程度整備されているので、初心者が入っても十分上達することができます」と笑顔で語ってくれました。

昨年行われた大会では、部の成績は本選止まりという結果。今年は「一人でも多く決選まで残る」という目標を掲げているそうです。

競技スキー経験者はもちろんのこと、あまりやったことがないという初心者の方や、やりがいのある活動をしたいという方は、ぜひ一度見学に行ってみてはいかがでしょうか。

(学生記者 駒大スポーツ所属
文学部国文学科2年 齋藤 綾乃)



公式Twitter : <https://twitter.com/komazawaski>

サークルの活動報告



ボクシング部

鬼倉龍大選手(経済4)が、5月14日(土)～7月9日(土)に開催された「第69回関東大学ボクシングリーグ戦・1部」でリーグ戦5試合全てに勝利し、ミドル級の「階級賞」を受賞しました(チームはリーグ戦5位)。また鬼倉選手は10月2日(日)～9日(日)にタイ王国のチェンマイで開催された「第7回世界大学ボクシング選手権大会」のミドル級日本代表選手に選出され、日本代表コーチとして同部の小山田裕二監督が就任しました。



空手道部

6月25日(土)に開催された「内閣総理大臣杯第59回全国空手道選手権大会」で、男子団体形優勝、女子団体形優勝、男子団体組手優勝、女子団体組手準優勝という素晴らしい成績



をおさめました。また同大会で大学団体戦総合優勝を果たし、文部科学大臣杯も受賞しました。

卓球部

7月上旬に開催された「第86回全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部」で第8位に入賞、来年度の出場権を獲得しました。また、9月に行われた秋季関東学生卓球リーグ戦(2部)では、2部優勝、来春1部昇格が決定しました。個人では、玉置怜央選手(経営1)が、8月21日(日)～25日(木)に大韓民国の忠清南道で開催された「2016日本・韓国大学生卓球交流戦」に日本代表選手として出場しました。



体育会本部/文化部

7月23日(土)に玉川キャンパスと周辺の清掃を実施しました。これは体育会団体が日頃の感謝を込めて清掃したいと大学に発案したことがきっかけで、2011年から行っています。今回は

今年度2回目となる文化部団体も参加した合同清掃で、キャンパス内の草取りと周辺のゴミ収集を行いました。玉川キャンパスを利用する全ての団体が参加しており、クラブやサークルの垣根を越えた交流の場にもなっています。

ゴルフ部

篠崎嘉音選手(法律1)が、「第64回関東学生ゴルフ選手権」で24位タイとなり、8月23日(火)～26日(金)に開催された「第70回日本学生ゴルフ選手権」へ出場しました。



また、加賀夏実選手(社会1)が、「第54回関東女子学生ゴルフ選手権」で7位となり、8月24日(水)～26日(金)に開催された「第53回日本女子学生ゴルフ選手権」へ出場しました。

サークルの活動予定

声援歓迎

体育会

- **アメリカンフットボール部**
- 2016年度秋季リーグ戦／～12月3日(土)／アミノバイタルフィールド、富士通スタジアム川崎
- **サッカー部**
- 第90回関東大学サッカーリーグ戦(後期)／～11月13日(日)／味の素フィールド西が丘 他
- **射撃部**
- 秋季首都十大学定期戦／11月下旬／神奈川県立伊勢原射撃場
- **少林寺拳法部**
- 少林寺拳法全日本学生大会／11月6日(日)／日本武道館
- **バスケットボール部**
- 第92回関東大学バスケットボールリーグ戦／～11月9日(水)／国立代々木競技場第二体育館
- **男子バレーボール部**
- 2016年度秋季関東大学バレーボールリーグ戦／～10月29日(土)／駒澤大学玉川キャンパス 他
- **ボウリング部**
- 第55回関東学生秋季レギュラーリーグ戦／～10月30日(日)／高尾スターレーン、マルアイボウリングほか
- **ラグビーフットボール部**
- 2016年 関東大学リーグ戦4部／～11月20日(日)／駒澤大学玉川キャンパス 他
- **陸上競技部**
- 秩父宮賜杯 第48回全日本大学駅伝対校選手権大会／11月6日(日)／熱田神宮西門前～伊

頑張れ駒澤大学!! 皆さまのご声援をお待ちしています。

- 勢神宮内宮宇治橋前
- 第93回箱根駅伝(東京箱根間往復大学駅伝競走)／1月2日(月)・3日(火)／1月2日(往路): 大手町 読売新聞社前～箱根町 芦ノ湖駐車場入口 1月3日(復路): 箱根町 芦ノ湖駐車場入口～大手町 読売新聞社前
- **ボクシング部**
- 全日本選手権大会／11月16日(水)～20日(日)／愛媛県松前公園体育館
- **硬式野球部**
- 平成28年度東都大学野球秋季リーグ戦／～10月26日(水)／上尾市民球場ほか
- **チアリーディング部BLUE JAYS**
- 第28回全日本学生選手権大会／12月10日(土)・11日(日)／国立代々木競技場 第1体育館
- **男子ラクロス部**
- 第29回関東学生ラクロスリーグ VS帝京大学／10月22日(土)／大井ふ頭中央海浜公園 第二球技場
- 新人戦ウィンターステージ／12月4日(日)～17日(土)／フクダ電子スクエア、江戸川区臨海球技場
- **応援指導部ブルーベガサス**
- 第十二回天馬祭／12月10日(土)／記念講堂
- **文化部**
- **合唱団**
- 駒澤大学合唱団第53回定期演奏会／12月27日(火)／川口総合文化センター・リリア 音楽

- **ホール**
- **ギタークラブ**
- ウィンターコンサート／12月11日(日)／記念講堂
- **ギターマンドリン倶楽部**
- 第46回定期演奏会／12月2日(金)／川口総合文化センター・リリア 音楽ホール
- **吹奏楽部**
- 駒澤大学吹奏楽部演奏会 in 上田／11月26日(土)／上田市サントミュージゼ
- 第52回定期演奏会／12月18日(日)／記念講堂
- **落語くらぶ**
- 駒大寄席／12月／未定
- **任意団体**
- **管弦楽団**
- 駒澤大学管弦楽団第39回定期演奏会／11月12日(土)／日経ホール
- **駒澤お笑い集団ナイフとフォーク**
- 第6回日東駒専合同ライブ「中学歴芸人の猛攻」／11月19日(土)／中野Studio twl

こちらにもアクセスしてください!

駒澤大学ホームページ
<https://www.komazawa-u.ac.jp/>
 Facebook komazawa.university
 Twitter @komazawa_univer
 YouTube komazawauniv

『若い人にこそ、海外で仕事をしてほしい』



鳥取県出身。1987年法学部政治学科卒業。在学時に應援指導部第9代代表を務めた。セッツ株式会社（現セッツカートン株式会社）入社。2013年10月にベトナムに転勤し、翌月SETTSU CARTON VIETNAM CORPORATION設立。翌年10月より工場稼働。現DEPUTY GENERAL DIRECTOR（副社長）。

段ボールのトップメーカーに勤め、ベトナム工場を立ち上げた浜田さんに、赴任先のホーチミンからインタビューに答えていただきました。

* * * * *

---どのような学生生活でしたか。

当時、社会主義のソ連は破綻寸前、中東ではイラン・イラク紛争、インドではガンジー首相の暗殺など、世界情勢は混沌としていました。高校の授業が追いつかないほど早い世界の動きに関心を持ち、政治学科に進学しました。

大学では應援指導部ブルーベガサスに入り、学生生活は応援一色。駒大野球部は黄金期でした。所属した小堀訓男ゼミ（※）では中東地域を研究し、ゼミ発表と神宮での試合が重なったときは、一睡もしないまま応援して3回くらい気を失いかけてました（笑）。

---なぜ今の会社に就職したのですか。

セッツカートンの前身はセッツ株式会社（1999年レンゴーと合併後社名変更）といって一部上場の紙・段ボール産業界では当時無借金で優良企業でした。紙産業は一見地味ですが、文化のパロメーターとも言われ、興味があつたんです。今となっては笑い話ですが、内定後「浜田くんの故郷に近いかわい子がいて、総務が責任もって紹介す

るから」と言われ、それが今の奥さんとの出会いになりました。

仕事は営業一筋でした。お客様と直接面談し、希望に沿って製造します。その場でサンプル作成することや海外でプレゼンすることもありました。自分が携わった企業の新商品が店頭に並ぶこともあり、その緊張感、期待感、達成感は営業の醍醐味ですね。

逆に大失敗もあります。新人の頃、打ち合わせが不十分で、製造したものが丸々不合格になってしまったんです。損害額は私の初任給の2倍。それ以来、細心の注意を払うようになりました。

---ベトナムに赴任したきっかけは？

2013年にホーチミンへの進出が決まり、工場立ち上げを任せられました。世の中は円高基調が続き、各メーカーの海外進出が本格化していました。元々頻繁に海外出張していたことに加え、浜田なら慣れない飯も平気だろうし、ベトナム顔だからという理由で切符を渡されたんだと思います（笑）。まあ会社としては、バイタリティーがある人物を選んだということでしょう。

会社設立にあたり、現地で他社のデスクを間借りさせてもらい、毎日のようにベトナムの習慣から経済までレクチャーを受けました。温かな助けに恵まれたことに、今も感謝しています。

現在は約90人のベトナム人とともに働いています。彼らは他に好条件が見つかったと辞めていきますし、楽に稼ぎたい若者も多いため、労務問題に苦心しています。各人のスキル表を作って根気強く説明したり、社のビジョンや本人への期待度を具体的に伝えるようにしていますね。

休日のリフレッシュ法は、ゴルフと食巡り。ホーチミンのレストラン数は世界一かというくらい多いですよ。

---大学駅伝には今も応援に駆けつけていると伺いました。

大学三大駅伝は、出雲・全日本・箱根ですが、実は出雲駅伝での各大学の

応援合戦の仕掛け人は私なんです。今から20年前、私の故郷に近い出雲でも、箱根並みの大学応援ができたという思いがあり、大会関係者の方や同窓会・OBなどに働きかけ、最初は神奈川大学と駒大2校で始まりました。出雲で駒大が異常に人気があるのは、これに端を発しています。現役のブルーベガサス部員ともよく話をしますが、世代を超えて同じ「母校愛」を共有していると感じています。私にとって自慢の息子・娘たちです。

---学生にアドバイスをお願いします。

同じ意志を持って集まった仲間でも考え方は違います。組織をまとめあげるのは非常に大変なことです。社会人になってもこの問題はついて回ります。時には相手の話を聞き、時には自ら火の中に飛び込むことも必要です。

私は48歳での海外赴任でしたが、もう少し若い頃に経験しておけば良かったと思います。海外にいと、日本の若手社員は会社ルールに縛られ個人の魅力が失われている気がします。海外勤務希望を募っていたら是非手を挙げたいかがでしょうか。就職面接でも海外勤務を積極的にアピールしてほしいですし、いっそ海外で就職する手もありますよ。私も、今後の夢であるミャンマー工場稼働に向け、奮闘していきます。



SETTSU CARTON

セッツカートン株式会社

セッツカートンベトナム

<http://www.settsucarton.co.jp/>

※：本学名誉教授。専門は国際政治学。

「活躍する卒業生」はWEBでもご覧いただけます！

PRサイト 駒大プラス に本紙でご紹介できなかった内容を加え掲載しています。